

# さくら



令和5年11月27日(月)

## Honda



16歳で原付免許を取り、初めて買ったバイクが「Honda Dax (ダックス) ST50」でした。以来、Hondaのバイクは、原付バイクから大型バイクまで、8台を乗り継いできました。カワサキ、スズキ、ヤマハといった他の日本メーカーにも、魅力的なバイクが多くあります。しかし、私にとってはHondaのバイクに縁がありました。

ところで、Hondaが1990年から2005年まで生産していた、NSXというスポーツカーがあります。通常、補修部品の保有年数は決まっており、それが終わってしまうと純正部品での修理が難しくなります。場合によっては、修理が不可能になることも。経済産業省のガイドラインでは、生産終了後、約8年は部品を供給するようにとされています。実際には、各自動車メーカーとも、もう少し長く部品は保有しているようですが、在庫がなくなれば、新たに製造することはないようです。

しかし、NSXについては少し事情が違います。NSXは量産車として世界初のオールアルミボディーを採用しました。スポーツカーの必須条件である軽くて丈夫なボディーを実現するためです。当時の開発者は「このボディーは35年は持つ」と言ったそうです。そこで企業責任を果たすため、2040年までこの車の部品を作り続けるというのです。企業としては、決して儲かる話ではありませんが、これがHondaという企業の姿勢なのかもしれません。

この企業の創業者は、本田宗一郎(ほんだ そういちろう) さんです。素晴らしい経営者であるとともに、一流の技術者でした。この人の言葉に「創って喜び、売って喜び、買って喜び」という言葉があります。この言葉は、Hondaの会社経営の基本理念として、ホームページにも掲載されています。

目先の利益だけにとらわれず、消費者の立場を考えたHondaの対応は、「自分のことだけ考えず、他者のことを考えた生き方」と言い換えれば、皆さんの日常にも活かせるのではないのでしょうか。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

